

2022年度事業報告

I. 2022年度事業方針

世代を超えた食文化研究の永続的な発展と、食文化の普及啓発へのさらなる貢献を目指す。食文化研究者の発掘・育成と研究・交流の場の継続的提供により、研究の更なる発展・拡大を図り、成果・知見の外部への体系的発信を通じて、食文化への関心を喚起し、理解を深める。

II. 2022年度事業報告

1. 食の文化フォーラム

(1) 2022年度 食の文化フォーラム

年間テーマ『東アジアの食文化—朝鮮半島を中心に考える—』

コーディネーター：守屋 亜記子 氏（女子栄養大学）

総合司会：池谷 和信 氏（国立民族学博物館）

セッション	タイトル	スピーカー(敬称略)
1. 歴史的視点 開催日: 2022年10月1日	① 宮廷料理 —過去・現在・未来— ② 境界と混種:植民地時代(1910-1945) 朝鮮半島の三重食卓 コメント:1981年シンポジウム「東アジアの食の文化」を振り返って	① 丁 ラナ(慶熙大)校) ② 周 永河(韓国学中央研究院 韓国学大学院) 石毛 直道(国立民族学博物館名誉 教授)
2. 地域からみた食文化 開催日: 2022年10月2日	① 平壤地方飲食文化研究 ② 安東チムタク発明・拡散・再定着 ③ 料理家の私的食卓史—日本生まれの韓国人の食における越境、変化と回帰— コメント:韓国の食文化における「地域」について	① 李 愛欄((社)北韓伝統飲食文化院、 北朝鮮料理店ヌンラパブサン店主) ② 斐 永東(国立安東大)校) ③ コウ 静子(料理家、茶人、国際中医 薬膳師) 朝倉 敏夫(滋賀県平和祈念館)
3. 食のグローバル化 開催日: 2023年3月4日	① 戦後韓国の食—経済史の視点から— ② 韓国飲食文化変遷—過去と現在そして未来 ③ 総括	① 林 采成(立教大)学) ② 鄭 惠京(湖西大)校)名誉教授) ③ 守屋 亜記子(女子栄養大)学)

フォーラムの原点となった1981年のシンポジウムを踏まえてテーマを設定、韓国からの登壇者を迎え、日本語・韓国語の同時通訳を導入して開催

(2) フォーラム40周年記念書籍 「フォーラム 人間の食」(全3巻)

2020年度および2021年度フォーラムの成果を、第2巻、第3巻として出版

第2巻『食の現代社会論—科学と人間の狭間から—』

伏木 亨氏 編 2022年8月刊行

第3巻『食の展望—持続可能な食をめざして—』

南 直人氏 編 2023年3月刊行

(3) フォーラム40周年記念誌制作・記念式典

フォーラム40年の歩み(特に第Ⅱ期以降中心)をまとめた記念冊子を制作

40周年記念式典・祝賀会開催(12月17日、参加者42名)

2. 食の文化シンポジウム

(1) フォーラム 40 周年記念シンポジウム

テーマ：『人間の食を考える－『食の展望』－ 食をめぐる「いま」と「これから』

基調講演：「食はいかにして「文化」となったか－食の文化フォーラム 40 年の歩みとともに」

原田 信男 氏（国士舘大学）

趣旨説明 南 直人 氏（立命館大学）

講演 「食料問題はどうか？－経済の視点を中心に」

中嶋 康博 氏（東京大学大学院）

「外食の現場から見たサステナビリティ」

生江 史伸 氏（レフェルヴェゾンズ）

「ジャーナリズムに描き出された食のいま」

長沢 美津子 氏（朝日新聞）

トークセッション

司会・コーディネーター：南 直人 氏

登壇者：池谷 和信氏、伏木 亨 氏

12 月 17 日 会場参加・同時配信併用にて開催（会場参加 63 名、配信 99 名）

(2) シンポジウム（単独開催）

テーマ：『人間の食を考える－『食の現代社会論』－科学によって見えてきた食の姿と心の現代』

趣旨説明 伏木 亨 氏（甲子園大学）

講演 「食文化の形成とヒトの嗅覚」

東原 和成 氏（東京大学大学院）

「視覚化される味覚～「インスタ映え」の社会学～」

藤本 憲一 氏（武庫川女子大学）

「食の倫理とヴィーガンの問いかけ」

北山 晴一 氏（立命館大学）

トークセッション：

司会・コーディネーター：伏木 亨 氏

登壇者：東原 和成氏、藤本 憲一氏、北山 晴一氏

9 月 25 日 会場参加・同時配信併用にて開催（会場参加 20 名、視聴 108 名）

(3) 共催シンポジウム：人間文化研究機構共催

テーマ：『錦絵「大日本物産図会」にみる日本の食べものづくり 江戸～現代の食文化を考える』

講演：「三代広重『大日本物産図会』からみる江戸・明治の食文化」

大久保 純一 氏（国立歴史民俗博物館）

「近代の日本酒づくり－『大日本物産図会』を参照しながら－」

青木 隆浩 氏（国立歴史民俗博物館）

「日本の食文化と昆布－その歴史と未来－」

奥井 隆 氏（奥井海生堂）

トークセッション

モデレータ：松田 睦彦 氏（国立歴史民俗博物館）

パネリスト：青木 隆浩 氏、奥井 隆 氏、大原 千鶴 氏（料理研究家）

11 月 11 日 有聴衆にて収録（会場参加 85 名）

2 月 10 日より人文機構および味の素食の文化センターの YouTube にて収録映像配信

視聴数：計 535（2023 年 5 月 17 日現在）

3. 食の文化研究助成

- (1) 2022 年度食の文化研究助成 (2022 年 7 月 1 日～8 月 31 日募集)
応募 35 件から選考委員会で 10 件採択

研究課題 研究者(2023年4月現在の所属・肩書)	共同 研究者	助成金 (千円)	研究期間 (年)
土器使用痕記録手法の先導的開発と日本古代米食調理法の復元 中久保 辰夫(京都橘大学文学部歴史遺産学科・准教授)	-	959	1
江戸時代における移入食文化の国内での拡がりと定着－江戸時代文芸の分析を通して－ 大関 綾(大谷大学・助教)	-	1,000	1
昆虫食文化圏における昆虫に対する食認知および摂食動機の解明 佐藤 優(社会医療法人雪の聖母会聖マリア研究センター 医療プラクティス研究ユニット・研究員)	1名	1,000	1
コロナ禍のネパールにおける「市民の台所」のエスノグラフィ:大規模路上市と(日常)的な食文化に関する人類学研究 北嶋 泰周(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫性博士課程)	-	1,000	1
「冷麺」に関する文化人類学的研究:日本と朝鮮半島に跨る人びとの移動と記憶に着目して 竹田 響(京都大学大学院人間・環境学研究科・博士後期課程)	-	1,000	2
江戸時代の食料消費の動向を探る－「通」を用いた地域比較を通して－ 三浦 加帆(立命館大学大学院食マネジメント研究科・博士前期課程)	-	856	1
世界農業遺産が小規模生産者の食糧生産・消費活動に与える影響に関する人類学的研究 北野 真帆(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・一貫性博士課程)	-	1,000	2
古代の煮堅魚、堅魚、堅魚煎汁の再現と現代食品科学からみた評価 山崎 資之(静岡県水産・海洋技術研究所・上席研究員)	2名	1,000	1
食をめぐる交渉:学校給食、お弁当とロヒンギャ難民の母親 小宮 理奈(東京都立大学・博士後期課程)	-	962	1
先史コスタリカの食物加工と象徴性－製粉具のデジタル画像分析と実験痕跡研究－ 久保山 和佳(日本学術振興会特別研究員PD [所属:東北大学])	-	1,100	1

- (2) 2022 年度贈呈式・中間報告会 (2023 年 3 月 8 日): 4 年ぶり対面開催
2022 年度助成者 10 名、中間報告者 11 名参加

4. 食文化誌『vesta』

- (1) 販売実績

	特集テーマ	アドバイザー	雑誌販売数 (～2023.3)	電子版購読者数(UU)		発行年月
				Kindle (～2022.12)	auブックパス (～2023.3)	
126	ジャンクフードとスーパーフード	太田 心平氏	1,200	112	72	2022年4月
127	食とジェンダー	湯澤 規子氏	1,307	181	63	2022年7月
128	和菓子文化の魅力	橋爪 伸子氏	1,334	271	78	2022年10月
129	来るべき未来の食	村橋 勲氏	1,192	未	51	2023年1月
		前年比	102%	148%	87%	

- (2) 「みる vesta～食文化の世界～」制作
特集ごとに内容を紹介する映像 (1 分、10 分) を制作、YouTube・Instagram にて公開

5. 公開施設 (ライブラリー・企画展示室)

- (1) ライブラリー実績 (2023 年 3 月末現在)

新規購入冊数	851冊	(対前年比 88.8%)
来館者数	4,445人	(対前年比 122.7%)
新規会員登録数	294人	(対前年比 117.1%)
貸出冊数	5,669冊	(対前年比 94.8%)
画像データ有償提供	22件(66作品)	(対前年比 73.3%)

* 作品数200%

- (2) ライブラリーリニューアルに向けたコンセプト検討
2024 年度にリニューアルするライブラリーの設計に向け、来館者解析を実施し、コンセプト立案を開始
- (3) 対外交流
東京都図書館研究交流会にて講演、食の文化ライブラリー紹介 (3 月 17 日 参加者 42 名)

6. 新・公開講座

(1) 学生向け公開講座

若い世代に食文化への関心を喚起し、当財団活動を知ってもらうきっかけとするため、留学を予定している学生への「食文化入門講座」を開発し、2回実施

(1月25日 玉川大学観光学部 48名、3月22日 栄陽子留学研究所 20名)

第1弾テーマ：「寿司」

監修：日比野 光敏 氏（愛知淑徳大学）

7. Web・SNSを通じたコミュニケーション

(1) Web サイト リニューアル

訪問者がサイト内を回遊しやすく、多様な財団活動に興味をひく構成とするため全面改訂実施
(2023年7月リニューアル予定)

(2) Web サイト訪問者：年間のべ 102,687人（前年比 93%）

(3) Facebook:2023年3月末フォロワー 1,797人(前年比 110%)、いいね! 1,606人(前年比 108%)

(4) Instagram：2023年3月末フォロワー 439人（前年比 133%）

(5) YouTube：2023年3月末チャンネル登録者 406人（前年比 144%）

(6) メールマガジン：月1回発行 2023年3月末会員 2,855人（前年比 102%）

8. 理事会・評議員会

	開催年月日	主な議事
定時評議員会	2022年6月28日	第1号議案:議長選出の件 第2号議案:議事録署名人選任の件 第3号議案:2021年度事業報告と決算に関する件 第4号議案:理事選任の件 第5号議案:評議員選任の件 [報告事項]味の素株式会社および関連企業との2021年度取引実績
第1回理事会	2022年6月7日	第1号議案:2021年度事業報告と決算に関する件 第2号議案:2022年度定時評議員会開催の件 第3号議案:理事候補者指名に関する件 第4号議案:評議員候補者選定に関する件 第5号議案:食の文化研究助成対象選考委員会選考委員選任の件 [報告事項]味の素株式会社および関連企業との2021年度取引実績
第2回理事会	2022年6月28日	[報告事項]代表理事・業務執行理事の業務執行報告
第3回理事会	2022年6月28日	第1号議案:理事長・副理事長・専務理事の互選の件
第4回理事会(書面開催)	2022年11月30日	第1号議案:2022年度食の文化研究助成対象の採択の件
第5回理事会	2023年3月10日	第1号議案:2023年度事業計画及び予算案の件 [報告事項] ①代表理事 業務執行報告 ②業務執行理事 業務執行報告

以上